

2011年も最後の月を迎えました。今月は大晦日の冒険ファンタジーをご紹介します。

『クレヨン王国の十二か月』
福永 令三／作 講談社 読み物

<お勧め年齢>

幼稚園☆☆☆ 小低学年★★★ 小中学年★★★ 小高学年★☆☆

中学生☆☆☆ 高校☆☆☆ 一般☆☆☆

(★が多い年齢の子どもにお勧めです。)



<本の紹介>

おおみそかの夜、7歳の女の子ユカがふと目をさますと、初日の出を写生するために準備しておいた12色の新しいクレヨンたちが会議を開いていました。クレヨン王国のゴールデン王様が家出をしたというのです。1年間のうちに王様もどらなければクレヨン王国はなくなってしまいます。王様はシルバー王妃が持っている12の悪いくせをなおさなければクレヨン王国にもどってこないと言い、シルバー王妃が王様を探す旅に出ることになりました。そして旅のおともにユカが選ばれたのです。

クレヨン王国は十二色のクレヨンが十二か月をおさめている国。羽よりも軽いトランクに十二色のドレスとくつとぼうしをつめて、1月の白の町から旅が始まります！

<子どもに手渡すときのポイント>

この本は47巻におよぶクレヨン王国シリーズの1作目です。最初は1965年に講談社文庫から出版されたのですが、15年後の1980年に青い鳥文庫から出版しなおされシリーズ化されます。青い鳥文庫は30冊でスタートし、この本はそのうちの1冊でしたが一番の売れ行きだったそうです。

このシリーズは文章は少し長いですが、小学校中学年の子どもたちにぴったりの内容となっています。ぜひ3、4年生の子どもたちに紹介してあげてください。

今回は1980年版の青い鳥文庫の表紙を載せていますが、現在入手可能なものは2011年11月にイラストが新しくなって出版されたクレヨン王国ベストセレクションのみになります。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店にあります。ぜひ手に取ってみてください。

子ども図書館 重村 さやか